



病児保育協議会

NEWS

一般社団法人 全国病児保育協議会ホームページ <http://www.byoujichoiku.net/>

第67号

2012年(平成24年)12月1日

〔発行人〕 会長 稲見 誠

〔発行〕 一般社団法人 全国病児保育協議会

〒154-0002 東京都世田谷区下馬 3-22-13 いなみ小児科内
TEL.03-3421-4885 FAX.03-3411-4936

第23回 全国病児保育研究大会in山口の御案内

第23回全国病児保育研究大会 会頭 鈴木 英太郎



秋もたけなわ紅葉の美しい季節となっております。このたび来年度2013年の全国病児保育研究大会を山口で引き受けることになりました。現在鋭意準備中ですが、企画中のものも含め御案内させていただきます。

日時は2013年7月14～15日(日・月)、場所は山口県宇部市のANAクラウンプラザホテル宇部です。会頭は鈴木英太郎、総務は谷村聡、プログラムは河村一郎、会場は金子淳子が担当し、進めております。

テーマは「みんなちがってみんないい」としました。病児の子どもを預かることについては、まず情緒の安定した環境が第一と考えています。子どもへのやさしさが自然に湧いてくるような病児保育でありたいと願っています。

山口県は童謡詩人金子みすずの生まれ育ったところでもあります。日本の小学校の国語の教科書で金子みすずの詩が載っていないものはないくらい現代では有名になっています。東日本大震災に際しても「みんなちがってみんないい」のフレーズがメディアでも流れていました。彼女の相手を思いやる心は病児保育の保育看護に欠かせないものと信じています。

来年度の研究大会では、このスピリットをバックボーンに病児保育を取り巻く諸問題を扱ってみました。もちろん病児保育ですので基本的な感染症の話は病因から予防まで扱います。甘える子育て論、タッチケア、メディアの影響、薬、発達なども企画しており、質疑応答の充分出来るセミナー方式で行う予定です。ランチョンセミナーで予防接種、スキンケア、気管支喘息などを受け持ってもらいます。また、一般演題は口演で行うことに

しました。ポスター発表よりも多数の人に分かりやすく説明できるでしょう。併せてポスターの掲示は行います。

折角の機会ですので観光にも足を運んで頂けたらと思います。

宇部市は彫刻の町として有名です。

4年に1度、常盤公園で野外彫刻展があり、全国一の企画です。



モモイロペリカンクタ君物語で有名なペリカンもいます。萩は、明治維新発祥の地で吉田

松陰の松下村塾などが有名です。下関は、日清戦争講和条約締結の地、高杉晋作の奇兵隊創成の地、遠くは平家滅亡の壇ノ浦の合戦の地です。

山口市は大名大内氏で拓かれた西の小京都といわれ、ザビエル教会がありました。

また、長門仙崎は金子みすずの生まれ育った場所であるほど詩が生まれた里と理解できる場所です。どれか一步足を運んで頂きよい思い出を作ってください。

最後になりますが、皆様方の奮っての御参加を心待ちにしております。地方の活性化にもぜひ御協力下さい。

厚 労 省 訪 問 記

10月30日、稲見会長、大川、原木副会長の3名で厚労省保育課を訪問してきました。

厚労省保育課より、橋本課長と岩瀬係長が対応してくださいました。

稲見会長より、一般社団法人病児保育協議会の活動内容の紹介と、実態調査についての報告、要望書の提出がされました。

病児保育事業が抱える問題点として稲見会長が挙げたのは以下の通りです。

1. 都市部の規模の大きな施設では、何とか大幅な赤字にはならず運営できるが、人口の少ない地方の小規模施設では運営が困難であり、これが病児保育施設の普及を妨げている。特に平成22年度からの出来高制がこれを助長している。
2. 病児保育事業の特殊性として、利用者の季節変動が大きい、キャンセルが多い、異年齢保育をするなどがある。このことが運営を困難にしており、とくに地方では著しい。
3. 病児保育事業は病気の子どもの最適な保育環境の提供であり、安心・安全を最大の目標とする事業である。

しかし平成22年度の改正で概ね病児10人に看護師1人、病児3人に対して保育士1名という体制が変わった。この基準は通常の保育園の0歳児の基準と変わりなく、とても病児保育の特殊性を考慮した安心・安全な保育看護を担保できる基準ではない。

もともと厚労省のパイロット事業の調査研究結果を踏まえて2：1保育が決定された経過がある。実際、多くの施設では従来どおりの2：1保育を行っている。

4. 国庫補助を受けていない業者やNPOが、病児保育と称して病児の預かりをしているこ

とが増えてきている。それらの施設や団体にて事故が起こった場合、病児保育事業そのものが否定的にとらえられると危惧される。

要望事項として、以下の6点を要望しました。

1. 派遣型に対するその位置づけや名称の変更
2. 利用数の少ない都市部以外の小規模施設に対する補助金の増額（従来の補助金制度への変更。）
3. 利用料が1日2,000円で安定運営ができる補助金にする
4. 保育園型や単独型に対する指導医手当の予算化
5. 病児を抱えた保護者に対する看護休暇や就労時間の軽減措置等
6. 「病児の子育て支援ステーション化」にむけてスタッフ1名の増員を

保育課橋本課長（以下保育課）と一般社団法人病児保育協議会（以下協議会）との意見交換の内容です。

要望事項1について

保育課：実際にはまだ運営されていない。もちろん施設型である方が望ましいが、地域的には施設を作るのが困難なところもあり、致し方ない場合もある。

本来保育所のあり方としては、就労支援とはいいながら、集団の中で子ども達を育てるという役割がある。

しかし、病気のおときは、そういう集団には適さない状況なわけで、派遣型のような形での状況も仕方がないのではないかと。資格を持たない家庭的保育者には100時間の研修を課しており、かなりハードルが高い。

協議会：<病児保育>は単なる就労支援ではなく、

こどもの目線にたった、こどもが病気のときに、最善の環境で過ごしてもらうための子ども支援と考えている。派遣型に「病児保育」ということばが使われるのには、私たちには抵抗がある。

また、専門性の低い状況下の保育で事故などが起きた場合、病児保育事業全体が受けるダメージが大きいことも危惧される。

要望事項2について

保育課：利用人数が何人くらいで、現在の補助金での赤字黒字がわかるのかが知りたい。

協議会：データを整理し、報告する。

保育課：どうしたら病児保育施設の拡充を果たせるか。

協議会：1. 基本的な部分の補助の増額。利用人数が少ない地方型と、多い都会型とで補助金体系を分けるなども一案。2. 開設時の施設補助。対応は自治体によって差があり、国が制度を作ってほしい。収益が見込めない事業に対する初期投資を新たに開業する医師に負担させるのは無理がある。3. 都会では、開設の場所の確保もむずかしい状況にあるので援助が必要。

協議会：今回の子ども子育て支援法の成立で、病児保育事業は第2種社会福祉事業となった。補助金などに消費税がかからなくなるはずだが、実施はいつから？

保育課：消費税増税が可決されて、その後の話になる。実施は平成27年度からの見込み。

最後に、橋本課長より、<今後、新しい法律の下で病児保育を運営していくにあたり、いろいろ見直していかなければならないことがある。

資料の提供など、協力をお願いしたい>という言葉があり、協議会側も協力を約束して、厚労省訪問を終えました。

お知らせ

第23回

全国病児保育研究大会 in 山口

「やさしく見守ろう」 ～みんなちがってみんないい～

日時：平成25年7月14日(日)～15日(祝)
場所：ANAクラウンプラザホテル 宇部

会 頭：鈴木 英太郎

事務局：鈴木小児科医院
(山口県宇部市)



ホームページがリニューアルしました



一般社団法人 全国病児保育協議会のホームページがリニューアルしました。病児保育に関わる情報等を、随時更新しておりますので、時々ぞいてみてください！今後は、加盟施設の方のみが見ることのできる「会員専用ページ」も作成し、国の制度などについてもお知らせしていく予定です。

※ 古いキャッシュが残っていると、ページが更新されないことがあります。ホームページを見られたら、時々、パソコンのF5のキーを押してみてください。

一般社団法人 全国病児保育協議会ホームページ
URL <http://www.byoujihoiku.net/>

全国病児保育協議会

検索

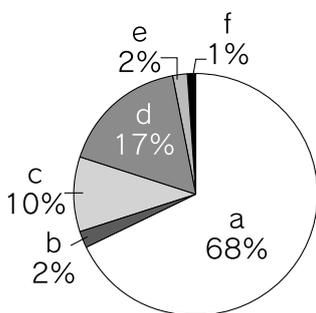
病児保育研修会アンケート報告

報告者 研修委員長 帆足 暁子

第22回全国病児保育研究大会における研修委員会企画による基礎研修・ステップアップ研修に参加された方のアンケート結果をご報告いたします。

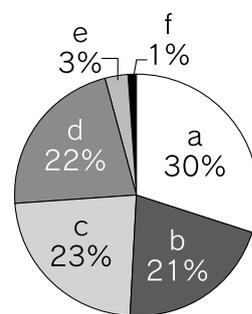
1. 所属形態

医療機関併設	a	199
乳児院	b	5
保育所型	c	30
単独型	d	49
派遣型	e	5
その他	f	4



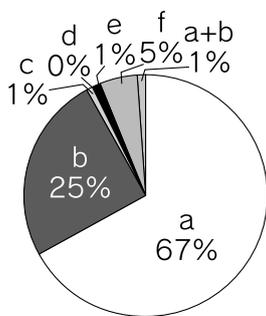
4. 年齢

20代	a	74
30代	b	52
40代	c	58
50代	d	56
60代	e	8
その他	f	2



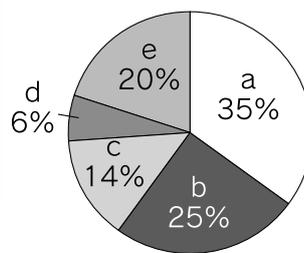
2. 職種

保育士	a	194
看護師	b	72
医師	c	3
薬剤師	d	1
栄養士	e	3
その他	f	16
保+看	a+b	2



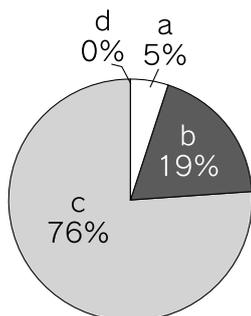
5. 勤務年数

1年未満	a	75
1～2年未満	b	53
2～3年未満	c	30
3～5年未満	d	13
5年以上	e	42



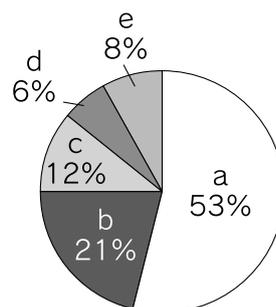
3. 仕事

施設長	a	12
責任者	b	47
スタッフ	c	188
	b+c	1



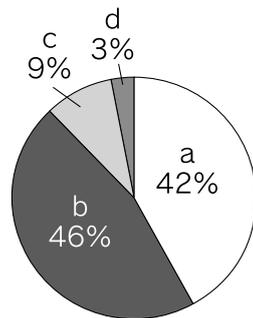
6. 参加回数

初めて	a	130
2回目	b	52
3回目	c	28
4回目	d	15
5回以上	e	20



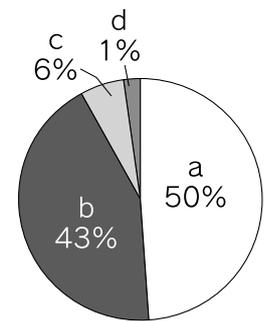
1. 基礎研修①

大変良かった	a	49
良かった	b	53
普通	c	11
あまり良くない	d	3



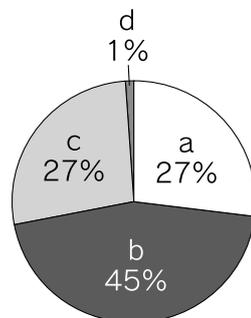
3. 基礎研修③

大変良かった	a	65
良かった	b	56
普通	c	8
あまり良くない	d	2



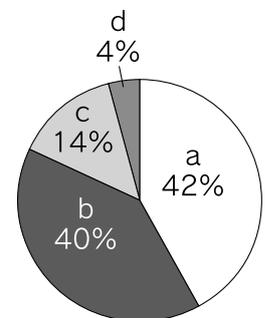
2. 基礎研修②

大変良かった	a	31
良かった	b	51
普通	c	31
あまり良くない	d	1



4. ステップアップ研修

大変良かった	a	33
良かった	b	31
普通	c	11
あまり良くない	d	3



第22回全国病児保育研究大会における研修委員会企画による基礎研修・ステップアップ研修に参加された方のアンケートの回収数は266枚でした。回収率は不明ですが、250名を超えるたくさんの方からご協力いただき、有り難うございました。

① 施設形態

医療機関併設型 68%、単独型 17%、保育所型 10%。単独型が多かったのは、今回の主催施設が単独型だった為ではないかと考えられます。

② 職種

保育士が 67%、看護師 25%で、保育士の参加が多くみられました。

③ 年齢

20歳代 (30%) 30歳代 (21%) 40歳代 (23%) 50歳代 (22%) と若干20歳代が多いものの年齢の偏りがあまり見られず、その一方、勤続年数は、2年未満が60%を占めていました。このことは、年齢と経験年数との相関がないことを示唆しています。

④ 研修会への参加回数

初回 53%、2回目 21%で1～2回目だけで74%を占めていたことから、新しく参加される方を対象に企画を考えていく必要があるように考えられます。

⑤ 各研修会の評価

基礎研修1(看護)は大変良かった42%、良かった46%、基礎研修2(保育)は、大変良かった27%、良かった45%、基礎研修(保育看護)は、大変良かった50%、良かった43%、ステップアップ研修(異年齢保育)は、大変良かった42%、良かった40%、となっており、どの研修におきましても高い評価が得られたことは、講師の先生方のおかげであり、感謝申し上げます。

⑥「保育士と看護師」で研修内容の評価をクロス集計した結果

基礎研修（看護）は、「大変良かった＋良かった」が保育士86%、看護師88%と予想外に看護師の評価が高く、特に小児看護をしてこなかった看護師等にも基礎看護が求められている実態が明確になりました。基礎研修（保育）は、「大変良かった＋良かった」が保育士68%、看護師83%と予想通り看護師からの評価が高く見られました。基礎研修（保育看護）は、「大変良かった＋良かった」が保育士96%、看護師82%であり、いずれも高い評価で、特に保育士にエビデンスに基づいた保育の捉え方や実践に活かせる具体的内容が求められていることが明確になりました。

また、ステップアップ研修では、病児保育の特徴の一つでもある「異年齢保育」が主題でしたが、「大変良かった＋良かった」が保育士83%、看護師58%、「普通」は保育士12%、看護師43%と職種による差が見られ、演題選びや内容構成につきまして今後の課題と思われます。

⑦「2年未満と2年以上」の勤続年数のクロス

経験年数に関係なく、どの基礎研修内容も評価が高いという結果は、今後、経験のあるスタッフの保育看護の専門性を向上できる研修のあり方が求められていることを考える契機となりました。

⑧自由記述

たくさんのご意見を頂きました。主な内容は、基礎研修（看護）では、「感性・気づきという看護の原点が良かった」「脱水・嘔吐時対応、バイタルチェック等参考になった」、基礎研修（保育）では「テキストに沿っていて良かった」「保育所保育指針や、自己評価等が良かった」、基礎研修（保育看護）では「記録（ドキュメント）参考にしたい」「日頃の仕事の整理・再確認ができた」、ステップアップ研修（異年齢保育）では「異年齢保育のもつ役割、大切さを認識した」「一人一人に合う保育に取り組みたい」でした。

その他、基礎研修テキストの活用が不明確、もっと具体的な病児保育における事例等がほしかったというご意見があり、今後の課題としたいと思います。研修会テーマの希望として、「発達・年齢にあった遊びの研究、遊びのもつ意味」「保護者対応」「具体的な実践内容」「記録や計画」「他施設の実践・工夫」「危機管理」「発達障害」「咳や発疹」「けいれん発作対応」等多岐にわたっていました。今後の研修内容に反映させていただきたいと思います。

研修テキスト、感染症ガイドラインの 講演を致します

地区勉強会、ブロック会への出張講演をお引き受け致します。

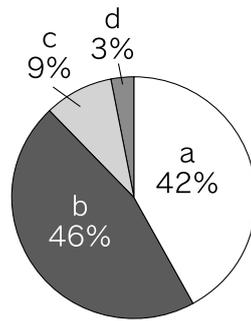
昨年度研修委員会では基礎研修テキスト、感染症対策委員会では感染症ガイドラインを作成致しました。その普及に努めるためにブロック会あるいは地区勉強会に解説にお伺いできるよう努める予定です。御要望がある方は希望する項目を明記して事務局に講演の3カ月前までにお申し込みください。講演項目が複数ある場合は優先順位をお付け下さい。講演予定日は日曜日をお願い致します。御依頼があっても講師の都合でお断りすることもあります。ご了承ください。

研修委員会委員長 帆 足 暁 子

感染症対策委員会委員長 大 川 洋 二

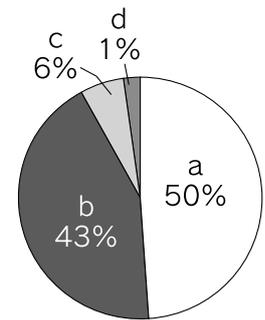
1. 基礎研修①

大変良かった	a	49
良かった	b	53
普通	c	11
あまり良くない	d	3



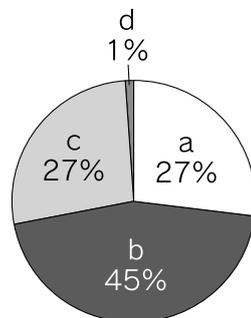
3. 基礎研修③

大変良かった	a	65
良かった	b	56
普通	c	8
あまり良くない	d	2



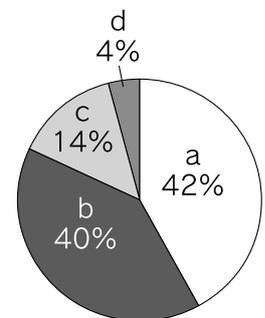
2. 基礎研修②

大変良かった	a	31
良かった	b	51
普通	c	31
あまり良くない	d	1



4. ステップアップ研修

大変良かった	a	33
良かった	b	31
普通	c	11
あまり良くない	d	3



第22回全国病児保育研究大会における研修委員会企画による基礎研修・ステップアップ研修に参加された方のアンケートの回収数は266枚でした。回収率は不明ですが、250名を超えるたくさんの方からご協力いただき、有り難うございました。

① 施設形態

医療機関併設型68%、単独型17%、保育所型10%。単独型が多かったのは、今回の主催施設が単独型だった為ではないかと考えられます。

② 職種

保育士が67%、看護師25%で、保育士の参加が多くみられました。

③ 年齢

20歳代(30%) 30歳代(21%) 40歳代(23%) 50歳代(22%)と若干20歳代が多いものの年齢の偏りがあまり見られず、その一方、勤続年数は、2年未満が60%を占めていました。このことは、年齢と経験年数との相関がないことを示唆しています。

④ 研修会への参加回数

初回53%、2回目21%で1～2回目だけで74%を占めていたことから、新しく参加される方を対象に企画を考えていく必要があるように考えられます。

⑤ 各研修会の評価

基礎研修1(看護)は大変良かった42%、良かった46%、基礎研修2(保育)は、大変良かった27%、良かった45%、基礎研修(保育看護)は、大変良かった50%、良かった43%、ステップアップ研修(異年齢保育)は、大変良かった42%、良かった40%、となっており、どの研修におきましても高い評価が得られたことは、講師の先生方のおかげであり、感謝申し上げます。

⑥「保育士と看護師」で研修内容の評価をクロス集計した結果

基礎研修（看護）は、「大変良かった＋良かった」が保育士 86%、看護師 88%と予想外に看護師の評価が高く、特に小児看護をしてこなかった看護師等にも基礎看護が求められている実態が明確になりました。基礎研修（保育）は、「大変良かった＋良かった」が保育士 68%、看護師 83%と予想通り看護師からの評価が高く見られました。基礎研修（保育看護）は、「大変良かった＋良かった」が保育士 96%、看護師 82%であり、いずれも高い評価で、特に保育士にエビデンスに基づいた保育の捉え方や実践に活かせる具体的内容が求められていることが明確になりました。

また、ステップアップ研修では、病児保育の特徴の一つでもある「異年齢保育」が主題でしたが、「大変良かった＋良かった」が保育士 83%、看護師 58%、「普通」は保育士 12%、看護師 43%と職種による差が見られ、演題選びや内容構成につきまして今後の課題と思われま

⑦「2年未満と2年以上」の勤続年数のクロス

経験年数に関係なく、どの基礎研修内容も評価が高いという結果は、今後、経験のあるスタッフの保育看護の専門性を向上できる研修のあり方が求められていることを考える契機となりました。

⑧自由記述

たくさんのご意見を頂きました。主な内容は、基礎研修（看護）では、「感性・気づきという看護の原点が良かった」「脱水・嘔吐時対応、バイタルチェック等参考になった」、基礎研修（保育）では「テキストに沿っていて良かった」「保育所保育指針や、自己評価等が良かった」、基礎研修（保育看護）では「記録（ドキュメント）参考にしたい」「日頃の仕事の整理・再確認ができた」、ステップアップ研修（異年齢保育）では「異年齢保育のもつ役割、大切さを認識した」「一人一人に合う保育に取り組みたい」でした。

その他、基礎研修テキストの活用が不明確、もっと具体的な病児保育における事例等がほしかったというご意見があり、今後の課題としたいと思います。研修会テーマの希望として、「発達・年齢にあった遊びの研究、遊びのもつ意味」「保護者対応」「具体的な実践内容」「記録や計画」「他施設の実践・工夫」「危機管理」「発達障害」「咳や発疹」「けいれん発作対応」等多岐にわたっていました。今後の研修内容に反映させていただきたいと思

研修テキスト、感染症ガイドラインの 講演を致します

地区勉強会、ブロック会への出張講演をお引き受け致します。

昨年度研修委員会では基礎研修テキスト、感染症対策委員会では感染症ガイドラインを作成致しました。その普及に努めるためにブロック会あるいは地区勉強会に解説にお伺いできるような努める予定です。御要望がある方は希望する項目を明記して事務局に講演の3カ月前までにお申し込みください。講演項目が複数ある場合は優先順位をお付け下さい。講演予定日は日曜日をお願い致します。御依頼があっても講師の都合でお断りすることもあります。ご了承ください。

研修委員会委員長 帆 足 暁 子
感染症対策委員会委員長 大 川 洋 二

平成24年度 千葉県支部・千葉市支部合同研修会報告

平成24年10月14日(日)千葉駅前の京葉銀行文化プラザにおいて、千葉県支部及び千葉市支部の合同研修会が開催され、講演及び施設懇談会に保育士51名、看護師10名、医師9名、その他職種7名の合計77名が参加しました。

講演では千葉県歯科衛生士会会長の岡部明子先生より、子どもの口腔ケアというテーマで、口腔の発達と離乳食の進め方について、歯科の観点からとても興味深いお話を伺うことができました。保育中にみられる子どもたちの仕草—いつまでも飲み込まない、食べ物を詰め込んでしまう、ストロー飲みで吹き出してしまう—などが口腔の発達と大きく関係していることから、保育者として発達を理解し援助することの大切さを具体的な食べさせ方のヒントなどを混じえてお話ししました。

また、全国病児保育協議会副会長の原木真名先生からは、今年度変更になっている「学校保健安全法」についてお話ししました。その中で参加者の関心事は、これからシーズンを迎えるインフルエンザの登園登校可能日についてでした。当園基準が変わって、解熱後の保育希望者が増加することが予想されますが、部屋の構造や預かる子ども年齢、状態など各施設



設にあった感染対策が必要になりそうです。

懇談会では、各施設でのインシデントの発生状況や対処方法について事前アンケートの内容をもとに話し合いを行いました。インシデント管理については、施設ごとその方法は様々でしたが、他施設の状況を知り対応の仕方や情報の共有の必要性など学びの多い時間が持てました。施設長会議でも市町村間の補助金の違いによる問題点や今後の支部活動のあり方について活発な意見交換がされたようです。今回の研修会は、保育現場ですぐにでも実践できることがたくさんあり、講演後のアンケートからも「保護者への指導にも役立てられそう」「病児保育をしている人たちと意見交換をすることで、自分の施設に活かせることがたくさん見えて良かった。」など同様の感想をたくさんいただきました。

さとう小児科医院 バンビーノ 佐藤 里美

全国病児保育協議会・大阪支部総会の報告

全国病児保育協議会・大阪支部では毎年1回支部総会を開催している。

本年度は10月13日に開催されたが、協議会法人化の初年の総会ということになる。全国状況、支部運営状況、事業計画などの会務議案の報告・協議をした後で、講演会を開いて施設関係者の研鑽に努めると共に、病(後)児保育を取り巻く政治・社会情勢にも触れることにしている。

本年度は何と言っても「社会保障と税の一体改革関連法」の理念の中核をなす「社会保障の全世代型への転換」であったが、政局の混迷の前に構想は吹き飛びそうな雲行きになりつつある。

講演の案内は、会員のみならず、講演会参加を契機に加盟が促進されるのではという期待を込めて、協議会非加盟組織にも届くように心掛けている。

講演会の内容は会員の希望に沿ってトピック的な演題を中心に選択される。

因みに、20年度は「登園・登校基準 見直しのポイント」、21年度が「新型インフルエンザ」、「ワクチンで防げる病気(VPD)」(22年度)、「発達障害」(23年度)などである。本年は、病児・病後児保育所「げ



んきっ子」の施設長である西村龍夫先生の「乳幼児の長引く咳と鼻副鼻腔炎」と題する1時間20分にわたる講演を拝聴した。咳の成因と対応、副鼻腔炎の関与、喘息についての詳細な解説とともに対症療法薬の限界についても言及された。

聴講された参加者にとって、明日からの病児保育に役立つ有益な内容であったといえよう。

このほか大阪支部では年4回の定例会を開催し、感染症や予防接種などについての学習会やグループディスカッションなどを通じて病児保育の質の向上を図っている。

大阪支部長 浜本 芳彦

第7回 石川県支部交流会報告

平成24年7月1日(日)に、金沢市教育プラザ富樫1号館にて第7回石川県支部交流会が開催されました。

今年は、全国病児保育協議会へ新たに加盟された1施設を加え計5ヶ所の加盟施設とその他の病児保育施設6ヶ所、体調不良児対応施設1ヶ所から、計29名の参加がありました。

最初に石川県支部長、山田優子先生より挨拶があり、その後、主に金沢市内で音楽講師及びリトミックを教えておられる蓮 桃季恵先生に「音楽を取り入れた遊び」と題して、参加者も共に参加しながら楽しくご講義頂きました。会終了後のアンケートでも「2回、3回と参加したくなる内容だった。」「早速実践して行きたい。」と大好評でした。続いてグループワークを行いました。各施設の「予約なしで来院する保護者の対応」、「受け入れしていない病気の場合」といった日頃の悩みの他に、病児保育に携わって間もない方も数名あり、「保育看護について

勉強したい。」「病児や看護を学びたい。」といった基本的な意見もありました。

今年で7回目となった交流会ですが、新しく始められた施設もあれば、10年以上病児保育に携わっている施設もあり、それぞれに抱える悩みも様々であり、そういう意味でも幅広く学べる全国病児保育研究大会等へ参加することが大切だと思いました。

また、「これからも交流の場はぜひ欲しい。」という意見もあり、石川県病児・病後児保育施設交流会がより有意義なものとして、続けていけたらと思いました。

聖霊病院・聖霊乳児院病児デイサービスセンター
看護師 松野 夕起子



第7回 愛知ブロック交流集会

平成24年6月23日(土)に第7回全国病児保育協議会 愛知ブロック交流集会が豊川市国府町にある医療法人鳳紀会 可知病院 病後児保育室 イルカールームで行われ、14施設56名と多くの方々が参加されました。

講習会では、心理カウンセラーや社会福祉士などの資格を持ち、三河地区を拠点に子育て・親支援活動を行っている方を講師に招き、傾聴・コミュニケーションを主とした「保護者との上手なコミュニケーションの取り方」について学びました。

病児の回復を目指して一日楽しく快適に過ごしてもらう為には、受け入れ時、保護者に普段の生活の様子や病状を伺ったり、お迎え時には保育室での様子の報告、帰宅後の生活や薬などの注意について細かい情報交換が必要不可欠です。時には、子育ての悩みを相談される場合もあり、スタッフの適切な対応が重要になります。その為、保護者との上手なコ



ミュニケーションの取り方・注意すべき点について教えて頂きました。又、参加者同士でペアになり、話し手・聴き手になり体

験を通して学ぶなど、参加者から自分自身の保護者との対応を振り返るなど良い機会になったとの声も頂いています。

意見交流会では、7グループに分かれ、あらかじめとっていたアンケート内容に基づいて各グループで意見を交わしてもらいました。また、医師もグループの中に入って頂き、普段スタッフが感じていることを医師にも伝えることが出来たら良いという思いと医師の目線での病児・病後児保育の思いや考えていることなどお聞き出来たらと思いいかなる形でいきました。意見交流会を行って悩んでいることや知りたいことが少しでも改善され、これからの看護保育に役立つことが出来たかと思えます。

また、全体会や講習会に参加し、また頑張っているという気持ちや、次回も交流集会に参加したいという色々な気持ちを持つことの出来る会に今後になればと思えました。

医療法人鳳紀会 可知病院
病後児保育室 イルカールーム 田辺 稔実



突撃! 保育室のお昼ごはん



施設名：枚方病児保育室 (大阪府)
定員：8名

当施設は医療機関（保坂こどもクリニック）併設型の病児保育室です。単独調理室を備え、栄養士とスタッフが会議で一年（12ヶ月分）の献立を作っています。子どもの病状や食欲、アレルギーなどに配慮し、個人個人の対応で食べやすいように調理の仕方も工夫しています。

月初めには数日ドクターに検食をお願いし、アドバイスを頂きながら、子どもが楽しく、おいしく食事ができるように季節感のある食事内容を心がけています。

〔幼児食〕

軟飯

（2合のお米に3合分の水分量で炊いています）

すまし汁

（カツオだしの効いたやさしいおすましです）

鮭のチャンチャン焼き

（北海道の秋鮭を使い、お野菜もたっぷり。ソースには卵不使用のマヨネーズと、お味噌を混ぜて、子どもの食べやすいお味にしています）

今回の献立は
こちら



『突撃！保育室のお昼ごはん』では保育室の昼食をご紹介します。昼食のみならず、人気メニューや昼食に関すること、取り組んでいることなどのたくさんの情報をお待ちしております！

次号掲載の締め切りは**3月1日**です。

宛先は、広報担当 岸本まで。

みんなにききたい!

Question

『年長児さんから小学校低学年のこどもの遊びを教えてください』（職種不明）



Answer

前回に引き続き、遊びについての質問です。

- ◎製作も、ゲームも少し難しいものが出来るようになる反面、小さい子向けのものでは、物足りなくなってしまうお子さんも!!
- ◎「製作が好きなお子さんには、簡単なペーパークラフト（昆虫とか、乗り物など）をインターネットで一緒に選び、ダウンロードして使っています」（看護師）

◎「昔ながらの伝承遊び、お手玉、あやとり、手遊びなどを楽しむいい機会と思って、誘って楽しんでいます」（保育士）

◎「少しルールの難しいゲームも出来るようになるので、トランプ、ウノ、オセロなど、用意してあります」（保育士）

今回もたくさんのご協力、ありがとうございました!

今回の Question

『口内炎がひどくて痛みが強い時に、お勧めのメニュー、おやつ、これは駄目だったというメニュー、おやつを教えてください!』（看護師）

手足口病や、ヘルペス、のどの痛む時にも応用できますね。皆さんのアイデア、実践をどんどんお寄せください! また、質問も同時に募集しています!

日々の保育看護での悩みや他の施設ではどうしているのかなどのご質問や質問に対するご意見をお待ちしています!

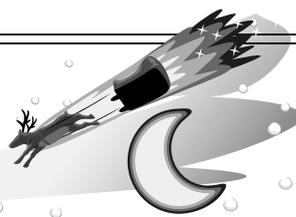
勤務地、職種をご記入の上、下記までご応募下さい。

郵便：〒080-0038 北海道帯広市西15条北4丁目2-7
FAX：0155-67-1141
E-mail: hinatabokko-kikitai@memoad.jp

「ひなたぼっこ」常丸宛



事務局より



1. 年会費納入のお願い

10月31日現在約134施設からお振込いただきました。皆さまからの会費がこの協議会を運営していく元となっております。

未だお振込がお済みでない施設長の方はよろしくお願ひ致します。

平成24年度分

◎ 事業年会費 補助受託施設 …… 25,000円

◎ 事業年会費 補助未受託・未開設 … 12,000円

◎ 事業年会費 個人 ……………… 5,000円

※上記のいずれかに当てはまる金額をお納めください。

◎ 賛助会費(1口) ………………10,000円

※賛助会費は当会の活動にご賛同していただける場合、事業年会費と併せてお振込みください。

【振込先】

〔郵便振込み〕口座番号 00140-8-378172
名義 一般社団法人 全国病児保育協議会

2. 支部会研修会補助について

各地区での支部会で最大10万円までの補助金ができます。

ご希望の支部会の方はホームページから申請書をダウンロードし支部研修会終了後、支部合同研修会補助申請書、支部合同研修会報告書に明記の上、研修会プログラム又は内容のわかるもの、会計報告書(各自由書式)、領収書(コピー可)添付の上、事務局まで郵送してください。確認の上、指定の振込口座にお振込致します。

また、今年度8月以前に申請書を大阪事務局に提出し、まだ振込のない施設の方も会計報告、領

収書提出後の振込になりますので、研修会終了後、振込口座を記入し提出してください。

3. マニュアル、テキスト等の購入について

事務手続きの都合上、大変申し訳ありませんが代金先払いをお願いいたします。

マニュアル・機関誌の料金形態が変わります。消費税の扱いを内税とさせていただきますになりました。

病児保育マニュアル(会 員)	3,360円
(非会員)	4,410円
機関誌(会 員)	1,050円
(非会員)	1,365円
感染症(会 員)	525円
(非会員)	735円
10年のあゆみ	1,680円です。

4. 事務局への連絡について

事務局は常設ではありませんので、電話での対応ができない時もあります。

できるだけFAX(03-3411-4936)でのお問い合わせをお願い致します。

お問い合わせ先

一般社団法人 全国病児保育協議会事務局

事務局長 池田光江

〒154-0002

東京都世田谷区下馬3-22-13 いなみ小児科内

FAX:03-3411-4936

● INFORMATION ●

次号(68号)のお知らせ

次号の68号は、「新年号」とし、各委員会の抱負や、委員のご紹介と、各県支部長のご紹介などを掲載する予定です。次号も盛りだくさんです。お楽しみに！



編集後記

各地域・各施設の様子がわかるように、また大切な情報をお伝えすべく、広報委員一同工夫をこらして取り組んでいます。

地域で耳よりな情報があれば、広報委員会までご一報ください。(広報委員長 永野和子)

協議会ニュースに関するお問い合わせ先

一般社団法人 全国病児保育協議会 広報委員会

担当：みるく病児保育室 永野和子

〒860-0056 熊本市西区新土河原2丁目8-34
TEL.096-351-8825 FAX.096-351-8830
E-mail:npomilk2@cream.plala.or.jp